

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い理想、深い叡智、重い使命を抱きつつ、次世代を牽引する真のグローバルリーダーを育成する学校をめざす。

- 1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルリーダーを育てる学校。
- 2 夢や志を実現できる確かな学力と探究力（自ら課題を発見し解決する能力）を身につけさせるとともに、生徒の進路希望の実現を図る学校。
- 3 三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育むとともに、周りに気を配り支える心・人権尊重の精神を涵養する、安全・安心な学校。
- 4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、教育活動をはじめとする様々な活動の充実・活性化を図る学校。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成

(1)GLHS(グローバルリーダーズハイスクール)、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGP(スーパーグローバルプログラム:SGH の成果を踏まえた独自の取組み)にふさわしい「志学」や「キャリア教育」の推進

- ア 進路意識の醸成：LHR等で、社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、大学等での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。
- ※ 学問研究に対する生徒の夢を育み、将来の進路選択への意識を高める「三丘セミナー」、「体感三丘セミナー」、「体感校外学習」等の実施【毎年20講座以上：生徒満足度90%以上】。
 - ※ 「CS(Creative Solutions:創造的課題解決)探究」や大学のオープンキャンパスなどを活用した、学部や進路の選択支援。
 - ※ 新大学入試や新学習指導要領につながる本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムの作成。【プログラムの完成・実施】
- イ 高い志の育成：三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験プログラム等により、SGU(スーパーグローバル大学)等の見学会・体験事業を通じて社会に貢献する高い志や目標意識を育む。
- ※ グローバルリーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会の充実【生徒の満足度90%以上】。
 - ※ SGU等の研究室訪問・見学会(年5回以上)、京大・阪大等の訪問・見学、東京方面キャンパスツアーなどによる、志の高いキャリア目標の醸成【生徒満足度90%以上】。
 - ※ 医療現場と連携した、医師・看護師などの医療系職場体験や医学部見学による、医療系進路への志育成。【医学部等進学者30人以上】

(2)国際感覚の醸成とグローバルリーダーの育成

- ア グローバルリーダーの育成：GLHS、SSH、SGPにふさわしい国際感覚や英語力を育成する
- ※ 3年間を見据えた「4技能を育成する英語授業」の構築・実施、内容の充実と、4技能を育成する英語授業の英語科全体で取り組む体制の開発・構築。【授業満足度70%以上】【コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある】生徒肯定的評価70%以上】
 - ※ 英語4技能型の外部試験(GTEC、TOEFL iBT等)の受験勧奨・支援。【受験者500人以上】、海外進学支援【海外の大学等への進学者1名以上】
 - ※ 「CSI・II・III」やSSH、SGPカリキュラムにより、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」等を学ばせ、学習意識を高め、グローバルリーダーの素養の育成。【GLHS生徒卒業時アンケート「社会の役に立てる人」「世界で活躍できる人」各60%以上】
- イ 国際感覚の育成：国際交流企画の実施・充実により、実際に見、聞き、感じることから国際感覚を醸成する
- ※ アメリカ・スタディツアー(リハイ大・NY、NASA・FIT)やフィリピン・スタディツアー、オーストラリア・スタディツアー、海外修学旅行(H28年以降台湾)など、海外研修等の実施、内容の充実【各海外交流企画生徒満足度90%以上】【国際交流に関する取組みが充実している】の生徒・保護者肯定的評価80%以上】
 - ※ 海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れ・交流の推進・充実【受け入れ30人以上を維持】

【2】 確かな学力・探究力の向上と進路希望の実現

(3) 質の高い授業による確かな学力・探究力向上

- ア 質の高い授業の提供：真のグローバルリーダーにふさわしい確かな学力・探究力の育成のため、教材、授業方法、自学自習方法の研究・開発を行う。
- ※ アクティブラーニング・双方向授業等のための新たな教材、授業方法の研究・開発・蓄積【授業アンケート結果の向上、授業満足度(生徒80%以上、保護者60%以上)】
 - ※ 「CS探究I・II」(課題研究)や発表大会の実施・充実【生徒満足度80%以上】
 - ※ 教科指導力の向上に向けた、先進校の視察・報告等による研修会、研究・公開授業、相互授業見学などの実施。【年7回以上の授業公開(外部公開含む)・研修会】
- イ 学力向上の取組み：学力向上と学習意欲の向上を図る授業以外の機会・場・方法の工夫創出・支援指導を行う。
- ※ 「三丘スタディーハード」「実践的な科学実験」の実施・充実【生徒の満足度70%以上】
 - ※ 1・2年生で効果的な授業の受け方の習得、自学自習力の向上、講習会の実施・充実【スタディサポートなどの結果向上】
 - ※ 基礎的、基本的な学力向上のための読書量、読書時間の確保。【読書量増加に向けた取組みの実施 1年間の読書冊数3冊以上】

(4) 進路希望の実現：生徒自らが適切な進路を選択できるための指導・支援と志望力を一層高めるため、進路指導体制を強化・充実する。

- ※ 生徒の進路意識の醸成のため、進路交流会などを利用した、卒業生等による学習・進路相談の充実。【年間5回以上】【進学指導に対する生徒の満足度80%以上】
- ※ 進路指導・進路ホームルームの充実と3年間を見通したキャリア教育プログラムの進化・深化。【国公立大学等(東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科)現役進学者40%以上】

【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養

(5) 生活習慣の確立と三丘スピリットの育成：自己をコントロールし、規範ある集団生活を営むことができるよう、「集中と切替え」ができる態度を養う。

- ※ 集会やHR等で啓発することなどによる、時間をコントロールできる意識・習慣の醸成。【年間遅刻総数1000未満】
- ※ 部活動や学校行事を通じて、「三丘スピリット」のもと、豊かな人間性とリーダーに必要な資質・態度の育成。【部活動加入率90%以上】
- ※ 生徒の悩みや不安などに対応するため、カウンセリングやコーチングについての研修などによる、教育相談やカウンセリング機能を充実。【「カウンセリング等を受けることができる」70%以上】

(6) 人権尊重の教育推進：情報リテラシー育成など今日的課題をふまえつつ、グローバルリーダーにふさわしい豊かな人間性や資質涵養し、あらゆる場面で人権教育を推進する。

- ※ 各学年または学校として、年1回以上の人権講演会および人権HR等による、人権意識の涵養。【「人権などについて学習する機会がある」生徒肯定的意見50%以上】
- ※ 今日的課題を含めての研修や、人権教育推進委員会と学年・分掌などの恒常的な連携による、全教職員の情報共有、課題解決に向けた取組み。【研修等年1回以上】

【4】 機動的な学校の運営体制の充実、開かれた学校づくり、教職員の資質・能力の向上

(7) 機動的な学校運営：学校経営計画の学校の目標や取組みを共有・実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげるため、組織的・機動的な学校運営を行う。

- ※ 評価・育成システムにおける教職員個々の設定目標を学校経営計画と連携・関連させた、進捗状況での支援、達成状況における確認。【各教職員の目標達成状況】
- ※ ICT環境の整備・充実と機動的な情報伝達による一層の情報共有化・業務の省力化を図り、ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施。【「校務のICT化推進」教職員肯定70%】
- ※ “働き方改革”を踏まえた取組みに向けて、「主体的に対話的な、深い“しごと”を意識し、より効率的・効果的な業務執行・組織運営。【「職員会等が情報交換・課題検討の場として有効に機能している」教職員70%】

(8) 安全・安心で開かれた学校：安全で安心できる学校であるため、緊急事態発生時の対応や危機管理体制を整備・実践する。

- ※ 管理職自らが率先して校内・校外を見回るなどによる、危険箇所や整備の必要な施設・設備の把握、改善。【「学校は様々な危険防止に取り組んでいる」生徒評価75%】
- ※ 登校指導時・各授業時間等における、生徒の状況や課題の把握、教職員間の情報交換・連携指導。教育相談機能の充実。【学期1回情報交換会、ケース会議の開催】
- ※ 保護者や地域との連携、及び、Webページを通じた教育活動等の発信。【「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が15%以下】

(9) 教職員の資質・能力の向上：「真のグローバルリーダーを育てる」学校の一員として、常により高みをめざす教職員を育成する。

- ※ 若手教員の勉強会「三究会」を中心に、ベテラン教員からの知識・技術の伝授、国や府の事業も活用した研修等により、若手教員の育成を図る【年間5回以上の研修】。
- ※ 授業力向上などをめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、先進校や教育産業等が主催する研修等への参加勧奨・支援。【年間延べ50人以上】
- ※ GLHS、SSHの研究・開発に積極的に取り組むことによる、先進的な取組みや最先端の研究の本校教育への活用。【GLHS、SSH事業の評価】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）が高い項目 【生徒】・文化祭・体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している（94.0%）・プロジェクタ等の映像機器を活用した授業は効果的である（93.2%）・スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取組みが充実している（91.3%）など6項目 【保護者】・文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている（94.9%）・お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させてよかった（91.5%）など5項目</p> <p>B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）が高い項目 【生徒】・大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい（39.3%） 【保護者】・大学受験に必要な科目にもっと重点を置いて授業をするべきだ（27.6%）・大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい（37.9%）</p> <p>C 経年変化の大きかった項目 【生徒のみ】・人権、環境、福祉について学習する機会がある（66.0%→86.7%）・総合的な学習の時間で受講した三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている（71.1%→79.9%）</p> <p>＜総括＞ ○生徒における肯定的意見が多かった項目を見ると、様々な新しい取組みが評価されていると考えられるので、今後も生徒のニーズにも応えつつ、より効果的な教育活動を模索していく必要がある。 ○「大学受験に必要な科目」と「大学受験にとらわれない学習活動」については、生徒、保護者とも、それぞれに大切であるという意見があることが感じられる。 ○「人権、環境、福祉」の学習に関する生徒の肯定的評価が昨年度から増加した。人権講演会の講師が卒業生であったこととテーマが身近に感じられる話題であったことが増加の一因と考えられる。 ○進路指導項目は肯定的意見が多く、現在の指導の継続・発展が望ましい。 ○授業に関する項目は肯定的意見が7割以上で推移しているが、教員の入れ替わりも多いことから、教科内で連携し、生徒が期待する授業の質を保证するべく務める必要がある。 ○「スマートフォンの使用」については、生徒の自主性に任せているご家庭が多いと考えられる。スマホ依存が問題となる中、学校と家庭が連携し、注意喚起していく必要がある。 ○「土曜授業の実施」については、質問を変更した。（「土曜授業は、学習効果があると思う。」→「土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。」）肯定的評価は、生徒 43.8%、保護者 79.9%で大きな隔たりがあり、学校全体で継続的に最良の方法を模索していく必要があると考えられる。</p>	<p>第1回（7/13）【昨年度及び今年度の取組み報告】 ○三丘生は学校生活を満喫している。部活動で頑張る生徒に対する補習を充実してほしい。 ○SGPの取組みをもっとアピールすべきである。 ○大学入試の問題も難しくなっており、国語力が必要になっていると感じている。問題集に載っていない問題にも取り組ませることも必要である。 ○学習活動におけるICT機器の活用の方法も進んでいる。現在すべての教室にプロジェクタが設置されているが、さらに発展させた取組みを模索して行ってほしい。その中で生徒が主体性を身につけることが大切である。</p> <p>第2回（10/2）【今年度の進捗状況報告】 ○PTAの役員、委員の皆さん三国丘愛に溢れている。どんどんPTAに要望を出してほしい。 ○学年通信や進路だよりなどをHPに掲載したり、SSHやSGPの発表会を動画で見ることができるようしたり、入学を希望する中学生のモチベーションが上がるようにしてはどうか。 ○課題を抱えている生徒もいる。教育相談など、引き続き生徒からの信頼感を保ちながら、成長を支援してあげてほしい。 ○様々な取組みが深められたり、広めたりされていて驚いている。ソサエティ-5.0も示されているが、社会の変化が加速的に進んでいくことを意識しておく必要がある。</p> <p>第3回（R2 2/15）【今年度の取組み報告及び来年度の基本方針の承認】 ○ICTの活用については、板書する箇所を投影して効率化を図ったり、画像を提示したりするなど、教科によって活用方法が異なると思う。具体的なイメージをもって取り組んでもらいたい。 ○課題研究は、生徒の新しい個性を引き出せるよい機会であると思う。グループづくりにおいては、各生徒の強みを生かす分け方もあると思うが、状況に応じて選択してほしい。 ○SGPも含めて明るい課題が多いが、不登校やハラスメントといった点もおそろかにすることなく、取り組んでほしい。 ○素晴らしい取組みばかりであるが、こんな時こそ授業力を向上させてほしい。三国丘のネットワークを生かすなど、様々な工夫を凝らして授業力を高めて行ってほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進	(1) GLHS、SSH、SGP にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する ア 進路意識の醸成 イ 高い志の育成 (2) 国際感覚の醸成とグローバルリーダーの育成 ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成	① 三丘セミナー等の充実。 ② 探究的学習「CS 探究」、体感三丘セミナー充実。 ③ 科学の最前線にふれる機会として「東京方面キャンパスツアー」を実施。 ④ 新大学入試や新学習指導要領につながる進路・キャリア教育のプログラム充実・改訂。 ⑤ 進路講演会・懇談会などの取組み充実。 ⑥ 東大・京大・阪大等研究室訪問・見学等実施。 ⑦ 医師・看護師などの医療系職場体験や大学医学部見学を実施し、医療系進学者勧奨・支援。 ⑧ 学習意識高揚、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップ育成のため、ネイティブ教員による授業や海外事前研修実施。 ⑨ 3年間を見据えた4技能を育成する英語授業の構築と内容の充実。 ⑩ 英語教育の充実を図るとともに4技能型の外部試の受験支援・勧奨。 ⑪ オーストラリア・スタディツアー、アメリカ・スタディツアー、フィリピン・スタディツアー、海外修学旅行を実施。 ⑫ 海外交流生徒・短期留学生の積極的受入れ。	① 20 講座以上 (H30 年度 47 講座) ② 満足度 85%以上(H30 88%) ③ 満足度 85%以上(H30 100%) ④ 3年計画の進路プログラム充実 ⑤ 実施回数年8回以上 (H30 9回) ⑥ 実施回数年8回以上 (H30 8回) 「適切な進路指導」生徒評価 85%以上 (H30 88%) ⑦ 医療系体験・見学回数3回以上 ・医療系進学者の5%増加 (H30 28人) ⑧ 事前研修満足度 80%以上 ・海外進学1名以上 ⑨ 授業満足度 80%以上 (H30 84%) ⑩ GTEC、TOEFLiBT 等の受験者計 630 名以上 (H30 年度 674 名) ・「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 75%以上 (H30 82.5%) ⑪ 参加生徒満足度 90%(H30 99%) ⑫ 交流生受入れ 30 名以上(H30 93 人) ・「国際交流に関する取組み充実」肯定的評価 80% (H30 生徒 90.3% 保護者 85.9%)	①42 講座実施 ◎ ②未定 (アンケート2月実施予定) ③東京方面キャンパスツアー8月実施 満足度 100% ◎ ④進路プログラムを基に学年指導を強化 ○ ⑤10 回実施 ○ ⑥19 回実施 ◎ ・「適切な進路指導」生徒評価 89.1% ⑦5 回実施 ◎ ・医療系進学者 未定 ⑧事前研修満足度 100% ・海外進学4名 (2名合格、2名受験) ◎ ⑨2月実施予定 ⑩GTEC1, 2年 640 名受験 ○ ・「コミュニケーション英語を学ぶ機会」 83.8% ⑪満足度 100% (オーストラリアは3月実施) ◎ ⑫高校3校、アेशन学生など 105 人受入れ ・「国際交流に関する取組み充実」 (生徒 91.3%、保護者 89.2%) ◎
2 確かな学力・探究力の向上と進路希望の実現	(3) 質の高い授業による確かな学力・探究力向上 ア 質の高い授業の提供 イ 学力・探究力向上の取組 (4) 進路希望の実現	① GLHS・SSH 指定校として生徒の学力をしっかりと伸ばす教科・科目の教材開発、授業方法の研究。 ② 生徒自学自習 (家庭等での学習) 時間を2時間以上とする工夫・取組み。 ③ 授業アンケートや研究授業を活用した授業力向上。 ④ 学力向上と学習意欲向上のため、1・2年生の学年早期に授業および自学自習勉強法指導 ⑤ 課題研究 (CS 探究) をインバウンド人材育成の観点から一層充実 (SDGs を視野に入れて) ⑥ 基礎的、基本的な学力を高めるため「読書記録」や「図書だより」により読書指導を充実 ⑦ 実力テスト・模擬テストの振り返り・結果分析の整理・充実。 ⑧ 発展的専門的な学習を望む者には「三丘スタディーハート」(進学講習)、三丘トーカー (医学部等)、成績不振者には「成績不振者講習」を実施。 ⑨ 学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成のため、卒業生との進路交流等の開催。 ⑩ 生徒自らによる適切な進路選択、大学への志望力を高めるための進路指導体制強化、「進路育成プログラム」の充実。	① 校内授業公開・保護者向け授業公開計6回以上実施。(H30 6回) ② 1、2年生1日2時間以上自学自習する割合 50%以上 (H30 49%) ③ 授業満足度 80%以上 (H30 85.2%) ④ 授業・自学自習勉強法指導を実施、学習指導強化週間の実施 ⑤ 生徒満足度 85%以上 (H30 88%) ⑥ 1,2年:学期に5冊以上読書 ⑦ 振り返り・結果分析方法、指導方法の策定 ⑧ 三丘スタディーハート・トーカー200回以上(H30:246回) 成績不振者講習 60回未満 (H30:82回) 添削等個人指導の延べ人数【新規】 現役合格者数増加 (H30 153人) ⑨ 卒業生との懇談・相談会の年間5回以上 (H30 9回) ⑩ 本校の進学指導に対する生徒の満足度 80%以上(H30 88.3%)	①授業公開3回、保護者向け授業公開3回計6回実施 ○ ②1年48%、2年52% (平均50%) ○ さらに自学自習の習慣づけを進めたい ③満足度 86.8% ◎ ④三丘エクゼルス(自習室開放)93回において、TA (ティーチングアシスタント) の活用7回実施 ◎ ⑤未定 (アンケート2月実施予定) ⑥1年は14作品、2年は10作品とブックトーク1回 ◎ ⑦各学年において、業者模試実施後の分析会6回 ◎ ⑧三丘スタディーハート・トーカー358回 成績不振者講習70回実施 添削等個人指導の延べ人数 未定 現役合格者数 未定 ⑨11 回実施 ⑩89.1% ◎
3 自主自立・人権尊重の精神の涵養	(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成 (6) 人権尊重の教育推進	① 遅刻指導の徹底、遅刻防止支援。 ② 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度育成。 ③ 豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養うため、各種の行事や部活動を通じた指導。 ④ 人間関係の構築などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養。 ・人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。	① 遅刻件数年1200件以内 (H30 1211件) ② 1、2年生の部活動加入率 95%以上を維持 (H30 96.0%)、行事満足度 80% ③ 挨拶運動年2回以上、リーダー研修年1回以上実施(H30年度全体1回、クラブ代表12回) ④ 各学年、年1回以上人権講演会、人権HR実施 ・学校教育自己診断(生徒)「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」60%以上 (H30 66%)	①2学期末まで1362件 △ ②1,2年部活動加入率94.4%○ 行事満足度94.0% ◎ ③挨拶運動2回実施、リーダー研修等12回実施 ◎ ④各学年1回実施 ○ ・学校教育自己診断(生徒)「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」86.7% ◎
4 機動的な学校運営体制の充実と教職員の資質・能力の向上	(7) 機動的な学校運営 (8) 安全・安心で開かれた学校 (9) 教職員の資質・能力の向上	① 学校目標を共有し、教職員が課題や改善点を意識して、次年度につなぐため、評価育成システムの目標設定、校長の学校運営に関するシート等を活用。 ② 情報の共有化、ICTを使った業務の省力化のため、校内ITを全員が一層積極的に活用。 ③ 安全で安心な学校として、緊急事態発生時の危機管理体制・対応について、防災プロジェクトチームを立ち上げ検討。教職員研修等実施 ④ 生徒相談室の機能の充実、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導。教育相談体制の周知の充実。 ⑤ 教育活動や学校運営 Web ページ発信を充実。 ・学級懇談会を行うことにより充実した各学年保護者連絡会等を実施する。 ⑥ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開。 ⑦ 新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。 ⑧ 学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。	① 学校教育自己診断教員評価「学校経営に教職員の意見が反映されている」30%以上 (H30 36.8%) ② 情報の共有化等研修を1回以上実施 (H30 1回) ③ 各学期1回以上の研修を実施(H30 6回) 備蓄・避難所体制等の検討・計画、防災宿泊体験訓練検討・充実 ④ 「支援カード」活用強化、ケース会議等開催 ・「教育相談だより」年6回発行(H30:5回) ・「相談できる先生がいる」75%以上 (H30 76.4%) ⑤ 「保護者から意見をきく機会を多く持っている」の否定的意見が15%以下 (H30 15.8%) ⑥ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。(H30 10日) ⑦ 三究会(勉強会)の開催(年3回)(H30 3回) ⑧ 年間5回以上の研修実施(H30 6回) 校内研究授業 各学期1回実施 ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間50人以上参加(H30 61人)	①66.7% ◎ ②1 回実施 ○ ③エトベン等対応研修6月、教員防災研修6月、防災宿泊体験訓練9月実施 防災PT8回実施、安全点検学期ごと3回実施 ◎ ④ケース会議5回実施 ・「教育相談だより」6回発行 ・「相談できる先生がいる」77.8% ◎ ⑤ 否定的意見15.8% △ ⑥5 回実施 (文化祭、学校説明会3回) ○ ⑦三究会5回実施 ◎ ⑧校内研究授業5回実施 ○ ・教育産業等の授業研修や他校の研修への参加58人 ○